

平成27年度 長岡市立図書館の活動評価

図書館法第7条3項の規定に基づき、平成27年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく自己評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

○ 評価の概要

- ・基本評価は、評価対象の10項目中、7項目の評価がA評価となり、昨年度の3項目を上回る結果となった。
- ・重点事項評価は、事業別評価の18項目では、Bの評価が2項目あった他はすべてAの評価となった。また、総括評価では、Bの評価が1項目あったが、他の5項目全てがA評価であったことから、全体としては、優れた取組が、いくつかあり、成果が上がっている。

○ 評価の項目

1 基本評価（前年度比較による数値評価）

前年度（平成26年度）の数値と比較し、評価を行う。

① 利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、登録率、実登録者数、登録率、中央図書館開館日数、中央図書館郷土資料受入点数、窓口対応満足度（インターネットアクセス件数、特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

2 重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。

- 1 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。
- 2 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 4 積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る。
- 5 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
- 6 新システムを活用するなど利便性の向上を図るとともに、快適な環境づくりに努める。

○ 評価の方法

1 図書館の内部評価

- ・項目ごとに前年度数値と比較するなどして算定し、評価する。
- ・「基本評価」、「重点事項評価」とともに、AAからCまでの4段階の評価とする。

区 分	評価区分・内容
1 基本評価	AA … 前年度を大きく上回った。(＋10%超) A … 前年度維持・伸張した。(0～＋10%) B … 前年度を下回った。(0未満～－10%) C … 前年度を大きく下回った。(－10%超)
2 重点事項評価	AA … 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 A … 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている B … 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 C … 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

2 図書館協議会による評価

① 協議会の開催

- ・日 時 平成28年2月19日（金曜日）
- ・会 場 長岡市立中央図書館講座室1

② 協議会の意見のとりまとめ

- ・上記協議会における各委員の意見を渡邊誠介委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

○ 図書館協議会意見

1 「基本評価」について

- ・評価対象の10項目中、昨年度の3項目を上回る7項目がA評価となったことは評価したい。

2、「重点事項評価」について

(1)【2-1 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。】

- ・「行政支援の強化」の評価が『B』というのは厳しい感じがする。図書館としては、足りない部分があるとしても、一定の方策は打っているのだから、これは受け手の問題だと思う。

(2)【2-2 当市をはじめとする郷土資料に関する各種資料の収集・保存・活用に努める。】

- ・「当市をはじめとする郷土に関する各種資料の収集・保存・活用」については、長岡市災害復興文庫事業を立ち上げ、全国の関係機関・団体と連携し、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信するなどの成果を上げている。

(3)【2-3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。】

- ・「市民の意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる」については、寄せられた意見を図書館運営に反映させ成果を上げていると認められる。
- ・Web 予約点数が15点までとなっているが、少ないのではないかとと思う。

(4)【2-4 積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る。】

- ・美術センター展示会の開場式での保育園児による手話付き市歌が素晴らしかった。今後も工夫を重ねていただきたい。期待している。
- ・工夫を凝らした多様な事業展開に取り組み、成果を上げている。

(5)【2-5 勉強会や職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。】

- ・勉強会や研修会をしっかりと行っており、成果を上げている。

(6)【2-6 新システムを活用するなど利便性の向上を図るとともに、快適な環境づくりに努める。】

- ・新システムの機能をさらにPRしていく必要がある。
- ・「子どもが騒ぐので一緒に図書館に行き難い」という声があった。子どもが騒いでも大丈夫な工夫やサービスができないか検討してほしい。

平成27年度長岡市立図書館の活動評価

1 基本評価

AA	前年度を大きく上回った（+10%超）
A	前年度維持・伸張した（0～+10%）
B	前年度を下回った（0未満～-10%）
C	前年度を大きく下回った（-10%超）

① 利用状況

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	評価	備考
入館者数（中央図書館・人）	361,819	342,145	338,790	B	
個人貸出冊数（冊）	1,637,528	1,616,219	1,647,057	A	
予約件数（件）	185,775	186,152	188,679	A	
有効登録者数（人）	50,521	49,522	49,139	B	
登録率（%）	18.08	17.85	17.85	A	
実登録者数（人）	38,317	37,749	37,798	A	
登録率（%）	13.71	13.60	13.73	A	
インターネット アクセス件数（件）	469,534	475,370	338,092		参考数値
中央図書館開館日数	297	295	301	A	
特別資料の転載等許可件 数	166	567	90		参考数値
中央図書館郷土資料受入 点数	2,851	3,004	3,090	A	
窓口対応満足度（大変よい ＋よい）%＜中央館のみ＞	87.9	83.5	83.4	B	

*有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数

*実登録者は有効登録者のうち年度内に1度以上貸出のあった登録者数

② 管理運営費

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	評価	備考
図書館費 (各年度の決算額・千円)	412,216	447,008	357,498		
(うち施設管理経費)	244,072	244,012	228,408		
(うち資料費)	65,290	66,829	62,741		
(うち事業費)	102,854	136,167	66,349		

2 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-1 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図る。

2-1 重点事項を達成するための重点事業

- ① レファレンス・サービスの充実
- ② 各図書館のテーマコーナーの整備
- ③ 行政支援の強化

(1) 重点事業概要

① レファレンス・サービスの充実

課題解決サービスの充実を図るため、パスファインダーの作成やレファレンス事例の HP 記載など、情報の収集・提供をする。

② 各図書館のテーマコーナーの整備

目につきやすいスペースを十分に活用し、利用者を引き付ける工夫をする。他施設とのコラボなど、取り上げるテーマも工夫する。資料リストを HP に掲載する。

③ 行政支援の強化

長岡市職員に図書館サービスを知ってもらい、行政の課題解決を支援する。各課刊行物の情報を収集したり、政策関連図書リストを作成したりする。

(2) 事業実績

① レファレンス・サービスの充実

対応したレファレンスについては複数の職員が協力して調査にあたった。解決できない照会については県立図書館等に照会し回答した。記録を保存し職員間での情報共有に努めた。

② 各図書館のテーマコーナーの整備

戦後 70 年の企画に合わせ、テーマコーナーやエントランス展示などを図書館一体となって進めたり、県立歴史博物館とコラボさせたテーマ展示を行ったりした。

③ 行政支援の強化

行政購入資料の二次活用について

5月19日付けで、各課に購入書籍・雑誌等について照会。

10月1日より、図書館資料として活用開始。

登録資料数：22件

内訳

・館内閲覧資料	21件
・貸出し資料	1件（貸出し実績 3回）

(3) -1 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	各課の講座や企画に合わせブックリストを作成し、課題解決支援をPRした。リストはHPにも掲載し、情報発信に努めた。

②	A	戦後 70 年企画など、利用者の興味をひくテーマを考え、展示をすることができた。
③	B	行政購入資料を図書館資料として二次活用することはできたが、長岡市職員へのレファレンス周知を実施することはできなかった。

(3) - 2 総括評価

重点 事項	評価	評価理由
1	A	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの導入、ブックリストの作成や各課の行政資料の二次活用の開始など、課題解決支援サービスの充実を図ることができた。

(4) 今後の課題・方向性

パスファインダーやブックリストを継続的に作成し、図書館資料の活用をPRしていきたい。
長岡市役所への行政支援の方法を検討することができなかったので、来年度の課題としたい。
職員が適切な調査支援ができるよう、職員研修などについて検討したい。

重点事業：2-1-① レファレンスの充実

<目的・概要> ・課題解決サービスの充実を図るため、職員のレファレンススキルの向上を図る。 ・パスファインダーの作成やレファレンス事例のHP 記載、ビジネス支援サービスのPRなどを行い、市民に図書館サービスを知ってもらう。	
レファレンス協同データベース 	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス 
<評価> ・受け付けたレファレンスについては複数の職員が調査にあたり、回答している。調査プロセス、提供資料、関連機関への照会等を記録して職員間で情報共有している。 ・事例は国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」へ定期的に提供している。 ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始し、レファレンス等に活用している。 ・まちゼミ等のイベントや講座に合わせてブックリストを作成し、配布やHPへの掲載を行った。 ・関係各課と協力して講座の際に図書館ビジネス支援サービスやレファレンスのPRを行い、図書館で調査研究の支援を行っていることを伝えた。 ・今年度は県立図書館が100周年事業のためレファレンス研修の講師派遣をお願いできなかった。 ・レファレンス事例のHP 掲載を検討していたが、掲載に適する事例がなく実施できなかった。 (今年度実績) ・レファレンス記録件数 72件（平成26年度 58件） ・HPブックリストページ開設 ・長岡まちゼミHP 特設ページ開設	
<課題> ・ビジネス支援に力を入れ始めて3年経ち、関係各課との連携をさらに深める必要がある。 ・パスファインダーやレファレンス事例のHP 掲載について充実させていく必要がある。 ・適切な課題解決支援を行うことができるよう職員のレファレンスのスキルアップ研修を充実させていく必要がある。	

重点事業2-1-② 各図書館のテーマコーナーの整備

<目的・概要>

- ・請求記号にこだわらず、テーマにそった本をまとめて並べることで、関連の本も探しやすくする。
- ・普段はなかなか目に留まらない書架の本を、めだつ場所に面出しにすることで、新たな利用を促す。
- ・市民からお勧めの本を募集したり、近隣施設の展示とコラボしたりすることで、市民や地域と密接な関係を築く。

中央図書館参考コーナー

新潟県立歴史博物館特別展にちなんだコーナー展示
「大正ロマン」



中央図書館一般コーナー

戦後 70 年企画に合わせテーマ展示
「忘れてはならない戦後70年」



地域図書館特設コーナー

北地域図書館では毎月テーマを変えて、他館資料を交換展示する特設コーナーを企画した。



地域図書館 文庫本交換展示

新潮文庫・文春文庫・創元推理文庫など、各地域図書館で収集している文庫本を図書館間で交換・巡回して展示
「エクスチェンジ展示」



＜評価＞

（中央図書館）

- ・ 7、8月に戦後70年の企画に合わせ、一般・参考の両コーナーで同じテーマの資料展示を展開した。エントランスでのパネル展示など合わせ、図書館全体で取り組んだ。一般コーナーには、わかりやすい児童向け資料も合わせて幅広く展示した。
- ・ 4月には参考コーナーで、新潟県立歴史博物館の展示と合わせ、「大正ロマン」に関するコラボ展示を展開した。
- ・ 各月、さまざまに趣向をこらしたテーマ展示は、新潟県図書館協会報でも取り上げられた。

（地域図書館）

- ・ 地域図書館でも定期的にテーマコーナーを作成、展示している。
 - ・ 北地域図書館では、特設展示コーナーを設け、「夢と希望」「縁結び」など毎月違うテーマで展示を行った。自館資料だけでなく、一部他館資料を加えて目新しさを出した。
 - ・ 中之島地域図書館では、3月に「装丁家で選ぶ本」のコーナー展示を行った。
 - ・ 11月から2月の特別図書整理期間前までの間、所蔵している文庫本にスポットをあて、文庫本の交換展示（エクスチェンジ展示）を実施した。
- コーナーの前で立ち止まってご覧になる方やまとめて借りて行かれる方も多く、好評な企画となった。

＜課題＞

- ・ どのようなテーマで展示を行うか毎回職員は頭を悩ませている。
- ・ 予約件数の増加などにはなかなかつながっていないが、資料はよく回転していて利用者の興味をひいていると思われるので、他市の図書館の事例も参考にしながら、各館交換展示など利用促進につながるテーマ設定を工夫する必要がある。
- ・ 県立近代美術館から美術館展示会の連携依頼を受けて、「ジブリの大博覧会」関連資料を展示した。今後どのように連携していけるか考えていきたい。

＜目的・概要＞	
・長岡市職員に図書館サービスを知ってもらい、行政の課題解決を支援する。 ・各課刊行物の情報を収集し市民に提供し、政策関連図書リストを作成する。	
中央図書館 二次活用資料コーナー 1階閲覧室内の一般中央付近にブックカートを 利用したコーナーを設置した。 	中央図書館ビジネスコーナー 第4回長岡まちゼミとコラボし、特設テーマコーナー を展開。 
＜評価＞	
・行政購入資料の各課の所有状況を把握し、図書館資料としての二次活用を開始することができた。 ・「道路」「清・飲・彩」「共同参画」等16誌はファイルで開架し、「雪の音」「新潟県医師会報」等は郷土資料として登録した。 ・「長岡ビジネスアーカイブ第5号」により、提供開始前にPRすることができた。 ・長岡まちゼミとコラボし、特設資料コーナーを設置し、ブックリストを作成した。	
＜課題＞	
・館内閲覧のみの資料が多く、利用状況の把握ができない。更に、貸出可能な資料についても、貸出し回数が少ない。このため、今後、より効果的な提供方法及び設置場所を検討したい。 ・長岡市職員への行政支援の準備が整わなかった。大阪市内中央図書館などの先行事例を参考に、周知方法などを検討し、来年度以降、実施したい。	

2-2 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-2 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

2-2 重点事項を達成するための重点事業

- ① 貴重資料の公開
- ② 郷土資料の充実
- ③ 古文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用
- ④ 長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用

（１）重点事業概要

- ① 貴重資料の公開
ネットミュージアム、エントランス展示を充実させ定期的に資料の展示を行う。
- ② 郷土資料の充実
 - ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
 - ・郷土出版物の出版情報に注目するとともに、関連施設と連携を図りながら情報収集をする。定期的に郷土資料の出版情報を収集し、新聞のチェックや長岡市役所各課へ資料の寄贈依頼を行う。
- ③ 文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用
 - ・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行、歴史資料所在確認調査などを行う。
 - ・平成 27 年度廃棄文書目録（予定表）から、歴史公文書を選定。各課から収集した歴史公文書を整理し、保管する。
- ④ 長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用
 - ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝えるため、中越大震災・東日本大震災等の災害記録の収集・整理・保存・活用を行う。
 - ・平成 27 年度は、長岡市災害復興文庫事業として、全国の関係機関・団体との連携を図り、長岡市資料整理ボランティア 10 周年記念行事や長岡市災害復興文庫展を開催する。

（２）事業実績

- ① 貴重資料の公開
 - ・ネットミュージアムにコンテンツ追加 11 点
 - ・エントランス展示回数年間 15 回（平成 26 年度 16 回）
- ② 郷土資料の充実
 - ・約 2,500 点の受入れのうち、寄贈受入は 1,883 点（平成 26 年度 2,073 点）
 - ・反町文庫への寄付金を有効に活用し、合併地域を含めた幅広い郷土資料の購入を行い約 220 冊購入することができた。
- ③ 古文書など歴史資料、歴史公文書の収集・保存・活用

- ・古文書など歴史資料寄贈受入点数 273点（平成26年度 517点）
 - ・歴史公文書の収集・保存（現在整理中）点（平成26年度 1,099点・121箱）
- ④ 長岡市災害復興文庫（被災歴史資料・災害復興関連資料）の収集・整理・保存・活用
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動。全18日活動、延べ237人参加。

（３）－１ 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	ネットミュージアムのコンテンツ追加を行うとともに、貴重資料の紹介だけでなく情報発信としてエントランス展示を充実させた。
②	A	郷土資料の蔵書数は、図書館全体で、昨年度より2,500冊程度増加した。
③	A	古文書など歴史資料、歴史公文書の適切な収集・保存・活用に努めた。
④	A	長岡市災害復興文庫事業を立ち上げ、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信した。

（３）－２ 総括評価

重点項目	評価	評価理由
2	A	ネットミュージアムのコンテンツの数や郷土資料の蔵書数も概ね例年通りの増加が確保できた。また、長岡市災害復興文庫事業を立ち上げ、全国の関係機関・団体と連携し、長岡市資料整理ボランティア10周年記念行事や長岡市災害復興文庫展の開催などをおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信した。

（４）今後の課題・方向性

- ・貴重資料については、計画的にデジタルデータ化を進めて行く必要がある。
- ・郷土資料については、支所地域の資料収集が不足している。各支所などに積極的に働きかけていく必要がある。
- ・歴史資料・歴史公文書について、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。
- ・「長岡市災害復興文庫」の充実とPRを図って行く必要がある。

重点事業：2-2-① 貴重資料の公開

＜目的・概要＞	
・中央図書館のエントランスでの貴重資料展示回数を確保するとともに、「図書館の窓から」で紹介し、市民に所蔵資料を紹介する。	
ながおかネットミュージアム	エントランス展示
	
＜評価＞	
① ながおかネットミュージアム （平成 27 年度実績）「長岡城攻防絵図」等 11 点を追加した。 （平成 26 年度実績）野本恭八郎書の貴重資料の軸物 10 点を追加した。 ② エントランス展示回数 （平成 27 年度実績） 15 回 （平成 26 年度実績） 16 回 「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料の紹介をするほか、7 月下旬から 8 月にかけて、エントランスの展示ケースを使い「図書館資料に見る長岡の戦災復興展」の展示を行った。そのほか水島爾保布画「蔵王大祭」、山本老迂斎画「雨龍」など図書館資料 8 点の紹介を行い、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。	
＜課題＞	
・約 170 点の貴重資料をネットミュージアムで公開しており、将来のオープンデータとしての公開も視野に入れながら、計画的に貴重資料などのデジタルデータ化を進めていく必要がある。 ・コンテンツが毎年増えており、構成の整理や検索機能の検討を継続していく必要がある。	

重点事業：2-2-② 郷土資料の充実

<目的・概要>

- ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
- ・行政からの収集のほか、新聞・雑誌などの媒体からの情報収集を行い、幅広い資料の収集に努める。
- ・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて収集する。

<評価>

ここでは参考数値として全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数を掲載する。

	全館郷土資料蔵書数 (各年度3月31日現在の所蔵)	前年比 増加冊数
平成24年度	82,043 冊	3,471 冊
平成25年度	84,787 冊	2,744 冊
平成26年度	88,053 冊	3,266 冊
平成27年度	91,143 冊	3,090 冊

- ・郷土資料の保管場所として与板支所の書庫を借用し、書庫として利用できるスペースを確保している。
- ・新聞や、雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。
- ・平成27年度は合併10周年の記念の年となり、郷土コーナーで各地域の紹介コーナーを設け、パンフレットの展示などを行った。

<課題>

- ・郷土資料の収集においては、すべての支所地域を網羅的に収集する必要がある。
- ・毎年度定期的に市役所各課に資料寄贈依頼を行っており、一定の量の収集を行っているが、今後は各支所に積極的に働きかけるなど、支所地域の資料の収集に力を入れていく必要がある。

(昨年度実績)

・各種講座の開催

講座名	回数	参加人数	会場
古文書解読講座（入門・一般）	各8回	483人	さいわいプラザ
長岡市史双書を読む会	4回	257人	中央図書館

- ・長岡市史双書No.54『江戸時代の旅と旅日記(2) 東北への旅』600部刊行
- ・歴史資料所在確認調査 越路地域・長岡地域を調査。調査箇所 2箇所
- ・歴史資料取扱い相談受付数 44件 内訪問調査回数 16件（平成27年3月現在）
- ・歴史公文書の保管数・保管場所 現在整理中 旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など
- ・歴史公文書の問い合わせ件数 10件（平成27年3月現在）

<課題>

- ・各種講座の参加者が固定化してきている。現在の参加者を確保しつつ、更なる層を開拓していく必要がある。
- ・講師・執筆者の高齢化が進んでおり、新たな人材を探す必要がある。
- ・歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れる歴史資料及び歴史公文書の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。

重点事業：2-2-④ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

<目的・概要>

- ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
- ・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新、講習会への講師派遣などの連携を強化する。
- ・新潟大学と、長岡市災害復興文庫をテーマにした冊子の発行などの連携を図る。
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動支援を行う（発足 10 周年記念事業など）。

長岡市災害復興文庫展 2015



長岡市資料整理ボランティア発足 10 年感謝状贈呈式



<評価>

（今年度実績）

・長岡市災害復興文庫事業

※「市政だより」10月号に特集記事が掲載されるなど、広報課と連携して、年度をとおして報道機関へ取材依頼、及び市民への広報に努めた。

○長岡市資料整理ボランティア発足 10 周年記念行事の開催

上越市古文書整理ボランティア交流会 上越市 参加者数10人

十日町市古文書整理ボランティア交流研修会 山古志地域 参加者数16人

襖下張り文書剥離作業体験講習会 まちなかキャンパス長岡 参加者数19人

祝 10 周年!長岡市資料整理ボランティア活動報告会 中央図書館 参加者数19人

（長岡市資料整理ボランティア発足 10 年感謝状贈呈式）

○長岡市災害復興文庫展「楽しく学ぶ! 長岡市資料整理ボランティア 10 年のあゆみ」の開催

期間:10月20日～11月23日 場所:中央図書館1階 エントランス

○関連書籍の刊行

矢田俊文・文書資料室編『新潟県中越地震・東日本大震災と史料保存・災害史研究—長岡市災害復興文庫を中心に—』（発行：新潟大学災害・復興科学研究所被災者支援研究グループ）

○国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に中越大震災発生時等に公立小中学校で撮影された写真約2,000点を新規コンテンツとして追加した。

- ・長岡市資料整理ボランティアは、全18日活動、延べ248人の参加があった。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークは、全2日活動、68人の参加があった。
- ・「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」(主催：国立国会図書館、会場：宮城県仙台市)等で長岡市の活動を紹介

(昨年度実績)

- ・長岡市資料整理ボランティアは、全18日活動、延べ151人の参加があった。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークは、全2日活動、47人の参加があった。
- ・「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」(主催：国立国会図書館、会場：岩手県盛岡市)等で長岡市の活動を報告した。

<課題>

- ・平成26年10月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのPRを継続するとともに、災害復興関連歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。
- ・今後も、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどにより一層の連携を図る必要がある。

2-3 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

2-3 重点事項を達成するための重点事業

- ① 利用者アンケートの実施
- ② 友の会事業
- ③ ご意見ポスの設置

(1) 重点事業概要

長岡図書館友の会「なりふ」との連携した図書館運営や、利用者からの意見を広く集めることにより、市民といっしょに作り上げる図書館を目指す。

- ① 利用者アンケートの実施
- ② 友の会事業
- ③ ご意見ポスの設置

(2) 事業実績

- ① 利用者アンケートの実施
- ② 友の会事業
- ③ ご意見ポスの設置

(3) -1 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	アンケートの結果は、概ね昨年度と同様であった。今年度より HP 上でも募集し、多くの意見を得ることができた。
②	A	なりふ古本市を初めて実施。順調な活動を行っている。
③	A	評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。今年度からご意見のほか、月別の満足度の掲示を始めた。

(3) -2 総括評価

重点事項	評価	評価理由
3	A	おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

（４）今後の課題・方向性

- ・満足度の高い図書館を目指すため、アンケートの実施方法などを検討する必要がある。
- ・アンケート調査を分析し、図書館運営やサービスの改善に結びつけていく必要がある。

重点事業：2-3-① 利用者アンケート

＜目的・概要＞	
・ 例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握したい。 ・ やり方について、Web でも行えないか検討する。	
アンケート項目	
【中央図書館】 ＜利用者アンケート＞ ○ 館内や本棚の表示はわかりやすいですか ○ 本の種類は充実していると思いますか ○ セルフ貸出機について、どのようにお感じですか？ ○ 子どもが読書の習慣を身につけるために何が重要だと考えますか など	【地域図書館】 ＜利用者満足度アンケート＞ ○ スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応、気配りなどについて（3項目） ○ 施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報、マナーなどについて（4項目） ○ 図書館サービスについて 題名の見やすさ、本、雑誌、資料の充実、特集や展示物などについて（5項目）
＜評価＞	
○ 中央図書館のアンケート アンケートは時間を決めてエントランスにて配布した。夏休みボランティアに参加している中学生などにも配布を手伝ってもらったところ、利用者の反応がよかった。窓口対応については、「大変よい」＋「よい」が83.4%とおおむね好評をいただいたが、「大変よい」が35.6%から32.8%に減少し「よい」が50.6%と半数を占めた。システムの入替えによりセルフ貸出機が導入されたが、23%の人が使っていなかったり、知らないという回答だった。 （今年度実績） 配布数 1,018 回収数 694 回収率 68.17% （昨年度実績） 配布数 1,033 回収数 770 回収率 74.54% ○ アンケート結果への対応 ・ 新書棚の下段が見にくかったので、斜めに底上げした。 ・ 延滞があると予約資料がなかなか借りられないとの苦情があったので、貸出一時停止開始時期を早めた。	

○ 地域館のアンケート

(今年度実績) 配布・回収数 894 (全て回収)

(昨年度実績) 配布・回収数 1,024 (全て回収)

今年度は各館100枚回収をめどとしてアンケートを行った(昨年度は長岡市の「施設利用者満足度調査」が実施されたこともあり多かった)。スタッフの対応については満足の割合が高く、好意的な回答がほとんどであった。施設の快適さについては、館内温度の小まめな設定、館内マナーの指導等、できることから取り組んだ。

<課題>

(中央図書館)

- ・本や雑誌の充実を希望する意見が多かったので、選書については、利用者の意見を反映させる方向で検討する必要がある。
- ・カフェの設置を希望する声が多かったこともあり、設置について検討する必要がある。
- ・HP上でアンケートを受け付けることで、来館しない人の意見を聞けるようになったが、設問のバリエーションを検討する必要がある。

(地域館)

- ・所蔵している本や新聞の種類についての満足度が低い結果となっているので検討が必要である。
- ・他館との入れ替えや新刊本の充実などさまざまな意見があった中、今年度は文庫本の交換展示を地域図書館7館で行ったが、今後も他館の蔵書との交換展示などを検討する必要がある。

重点事業：2-3-② 友の会事業

＜目的・概要＞	
・ 図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。	
なりふ古本市	図書館視察
10月11日（日）13時～16時 店主11人（うち図書館員1人） 布絵本紹介1人、読み聞かせ4人  【内容】 古本市、布絵本の展示、絵本等の読み聞かせ、工作 【成果】 ・ 235冊を販売し、7,410円の売り上げがあり、売り上げは全て社会福祉協議会へ寄付した。 ・ おはなし会の参加は親子約30組。	6月17日（水）実施 視察先 聖籠町立図書館 参加者 18名（図書館職員同行2名）  【内容】 ・ 今年度から平日に実施した。混雑日をさけることで、視察先から館内の案内や活動概要の説明を受けることができた。 ・ 聖籠町立図書館は平成26年6月に中学校跡地を利用して移転。壁面飾りや草花の手入れ、読み聞かせ等ボランティアの多角的な活動の様子は、今後の活動の参考になった。
＜評価＞	
初めて開催した「なりふ古本市」では、会員同士の交流や市民との本を通じた交流を持つことができ、有意義な時間となった。また、友の会の活動を知ってもらう良い機会となった。 来年度も開催できるよう、準備を進めていきたい。 （今年度実績） なりふ古本市開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など 個人会員 47名 賛助会員 8口	
（昨年度実績） 映画会実施、丸木展物品販売補助、エコ・ブックスフェアの共催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など 個人会員 48名 賛助会員 8口	
＜課題＞	
中央図書館長との意見交換会を行うなど、図書館との連携を強化するとともに、今後も、会員が主体となった企画・運営の取組みを支援する必要がある。	

重点事業：2-3-③ ご意見ポスの設置

＜目的・概要＞	
・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。 ・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。	
＜主な要望＞	
（中央図書館） ○ 英語の多読の本を検索する時に、YL（読みやすさレベル）が表示されないの、探しにくい。 ○ 長期間放置されている自転車がなくて、駐輪できない。放置自転車を撤去してほしい。 ○ 「●●●」に関する資料を入れてほしい。 など	（地域図書館） ○ 臨時駐車場が狭い、公園にも駐車できるようにしてほしい。（互尊文庫） ○ 新聞等を唾をつけてめくっている人がいる、止めさせてほしい。（互尊文庫） ○ トイレ手洗い場の蛇口の閉まりが悪いので改善してほしい。（西地域図書館） ○ 子ども連れが、子どもの動きなど気にせず利用できるようにできないか。（中之島地域図書館） など
＜評価＞	
（中央館） ・窓口対応については、おおむね好評価をいただいている。意見をうけて、英語の多読の本のYL（読みやすさレベル）を入力し、利用者が検索したときに表示できるように改善した。放置自転車についても、警告書を貼り、撤去に向け手続きを進めている。 ・資料に関する要望には可能なものにはその都度対応した。	
（地域館） ・施設・設備に対する要望が多い。大規模な改善はできないが、蛇口についてはパッキンを交換し対応した。 ・唾をつけてめくるのを止めさせてほしいとの要望については、新聞等の閲覧テーブルに紙めくりクリーム（メクール）を設置し対応した。	
＜課題＞	
普段職員が気付きにくいところの意見であることが多いので、利用者の目線に立ち、サービスを改善していくことを一層、心がける必要がある。	

2-4 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-4 積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る。

2-4 重点事項を達成するための重点事業

- ① 美術センター自主事業「合併 10 周年記念 郷土長岡を創った人びと展
～中央図書館所蔵資料を中心に～」の開催
- ② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施
- ③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

(1) 重点事業概要

長岡市立図書館では、子どもから高齢者までを対象に広く事業を行っている。今年度の事業から3点を選び評価を行いたい。

- ① 美術センター自主事業「合併 10 周年記念 郷土長岡を創った人びと展～中央図書館所蔵資料を中心に～」の開催

- ② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

子ども読書活動推進計画関連講座の開催やボランティア派遣、としょリンピックなどのイベントを行い読書機会の充実を図る。今年度は、読み聞かせボランティアや保育に関わる方々からニーズの高いわらべうた講座と、職員が保育園等へ出向いて行った絵本講座を評価対象とする。

- ③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

(2) 事業実績

- ① 美術センター自主事業「合併 10 周年記念 郷土長岡を創った人びと展～中央図書館所蔵資料を中心に～」の開催 入場者数 2,075人(13日間)

- ② 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

- ・子どもと楽しむ季節のわらべ歌「春から夏のわらべ歌を中心に」 参加者数47人
- 〃 「秋から冬のわらべ歌を中心に」 参加者数35人(2回連続講座)
- ・保育園等に出向いての絵本講座 実施回数 18回
参加者数 344人

- ③ 地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

戦災資料館でのブックトーク 参加者数30人(午前21人、午後9人)

摂田屋醸造歴史さんぽ 参加者数26人

図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール 参加校12校 30作品

(3) - 1 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	長岡市全11地域の財産といえる優れた先人たちと関連資料を一堂に紹介できたことで、郷土への理解を深め、愛着を持っていただく機会となった。
②	A	わらべ歌講座・絵本講座ともに、参加した読み聞かせボランティアや保育士のスキルが向上した。
③	A	地域の特色を生かした事業を今年度は新規事業を実施するなど拡充し、参加者から好評を得ている。

(3) - 2 総括評価

重点事項	評価	評価理由
4	A	中央館・地域館ともに、工夫をこらし、多様な事業展開に取り組んだ。

(4) 今後の課題・方向性

- ・市民のニーズや時勢を見極め、各種機関との連携など柔軟な発想をもって多様な事業を展開していく必要がある。
- ・継続事業については、マンネリ化しないよう内容を常に見直し改善に努める必要がある。

重点事業2-4-① 美術センター自主事業「合併 10 周年記念郷土長岡を創った人びと展～中央図書館所蔵資料を中心に～」の開催

<目的・概要>

- ・市町村合併 10 周年を記念し、市内 11 地域において、人づくり・まちづくりに貢献・寄与し、教育・文化・経済・特産物などの分野で優れた業績のあった先人たちについて、中央図書館・文書資料室・栃尾美術館所蔵資料を中心に紹介する。
- ・市民の貴重な宝を知ってもらう機会とし、郷土長岡への愛着と誇りの醸成を図る。



資料や解説文に見入る観覧者



1 階エントランスで同時開催した「図書館資料に見る長岡の戦災復興展」の解説に耳を傾ける中学生

<評価>

- ・中央図書館所蔵資料を中心に、普段なかなか見ることのできない、市内全 11 地域の優れた先人(家) 36 人の貴重資料 111 点(長岡市指定文化財 15 点、初展示資料 6 点、新収蔵資料 5 点を含む)を一堂に展示し、市民の宝を広く紹介することができた。
 - ・多くの方々からご覧いただき、「本物が見れて良かった」「知らなかった新たな人物や業績を知ることができて良かった」「長岡の教育レベルの高さを知り、誇りを持った」等の感想が寄せられた。
 - ・次の工夫をした結果、集客につながった。
 - ◆歴史に興味のないお客様からも気軽に入っていただけよう、長岡大花火大会にあわせ人気の高い花火関連資料展示を同時開催した。また、長岡花火当日の 8/3 は休館日ではあったが、展覧会のみ開展した。
 - ◆同時期に、戦後 70 年企画として「図書館資料に見る長岡の戦災復興展」(イトナ)、関連書籍コーナー(閲覧室)、映画会などを行い、本展と一緒に広報することで、集客の増加を図った。
 - ◆外部講師による展示解説を 5 回、当館職員による「まいにち 1 点解説会」を 10 回実施し、あわせて 200 人を超える参加者があった。
 - ◆展示室内に、市内全地域の観光パンフレットや文化施設のリーフレット等を多数設置し、観覧者が自由に持ち帰れるようにした。地域の PR や、市民の交流に役立った。
- (今年度実績)

「合併 10 周年記念 郷土長岡を創った人びと展～中央図書館所蔵資料を中心に～」

2, 075 人（13 日間）

（昨年度実績）

「原爆の図 人間、その濁と清 丸木位里・丸木俊の世界展」 3, 166 人（25 日間）

<課題>

メディアに取り上げてもらえるような積極的な広報の工夫が必要である。

重点事業2-4-② 子ども読書活動推進計画関連講座の開催

<目的・概要>

- ・平成24年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」にもとづき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。
- ・学校や家庭等での子どもの読書活動推進に役立つ講座等を実施する。
- ・保育園等へ出向いての講座を実施する。

① 子どもと楽しむわらべ歌（2回連続講座）



(1/16の様子)

② 保育園等へ出向いての絵本講座



(2/17の様子)

<評価>

【わらべ歌講座】

- ・県内では子ども読書活動推進先進地といえる新潟市で、長く私設家庭文庫スタッフとして活動され、その実績に定評のある講師から、子どもの成長に大変有益と言われるわらべ歌の意義や、多くの歌や遊びを学ぶことができた。その結果、参加者のスキルアップにつながった。
- ・本格的にわらべ歌が学べる機会とあって、図書館の読み聞かせボランティアだけでなく、子育て中の親御さん、保育士さん等からも多数参加いただいた。子どもの読書環境整備は、図書館だけでなく、より子どもに近い家庭や教育現場など、市全体で盛り上げていく必要がある中で、本講座は、一体感を共有できる良い機会となった。

(今年度実績)

子どもと楽しむ季節のわらべ歌

① 「春から夏のわらべ歌を中心に」	平成28年1月16日（土）	参加者数	47名
② 「秋から冬のわらべ歌を中心に」	平成28年1月30日（土）	参加者数	35名

(昨年度実績)

子どもと楽しむ季節のわらべ歌

① 「お正月から春のわらべ歌を中心に」	平成27年3月7日（土）	参加者数	37名
② 「夏から冬のわらべ歌を中心に」	平成27年3月14日（土）	参加者数	36名

【絵本講座】

・絵本の選び方や読み聞かせのポイント、絵本の魅力等について、日頃から子どもと接する時間の多い保育士や保護者に広く伝える機会となった。

（今年度実績）

実施回数 18回

参加者数 344人

（昨年度実績）

実施回数 5回

参加者数 104人

<課題>

【わらべ歌】

・わらべ歌は多くの種類があり、繰り返し行わないとなかなか覚えることができないため、講座のニーズが高い。同様の講座を継続していく必要がある。

【絵本講座】

・PRの拡大と、それにとまなう受入れ体制の整備を行う必要がある。

重点事業2-4-③

地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<目的・概要>

・今年度は、新たな取組として、互尊文庫の特色資料である「非核・平和」に関する事業として、長岡戦災資料館でのブックトークと、互尊文庫での「戦後 70 年を迎えて 語り継ぐ長岡空襲」と題した長岡戦災資料館所蔵の写真と防空頭巾などの展示(7月～8月)を行った。

・他館では引き続き特色資料や地域の特色を生かした事業を実施したほか、地域館全館で「図書館を使った調べる学習コンクール」(市内全小学校対象)を行った。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

○特色資料、地域性を生かした事業の実施

戦災資料館でのブックトーク

互尊文庫は戦災資料館主催の「長岡空襲」に関する講座の中で、長岡空襲の体験談をテーマにしたブックトークを実施。



摂田屋醸造歴史さんぽ

南地域図書館の特色資料「醸造」に関連した行事で、醤油・味噌・酒造りの伝統を守る摂田屋地区を歴史解説付きで散策した。



<評価>

そのほかでは、西館は「しなのがわたんけん」、北館は「花火玉づくりに挑戦」、中之島館は「六角風絵付け見学会」、寺泊館では「寺—TERA 巡り」を行った。また、栃尾館では地域行事の街めぐりイベント「雁木あいば」に出店という形で今年度も参加し、地域行事を盛り上げた。参加者のアンケートでは、「来年度も参加したい」とのお言葉をいただいている。今後も地域の特色を知ってもらう行事を積極的に実施していきたい。

<課題>

「摂田屋醸造歴史さんぽ」などのイベントは、事前申込みで定員をオーバーするほど好評である。しかし、「しなのがわたんけん」「六角風絵付け見学会」では参加者からの評価は高かったが、募集定員には届かなかった。イベントの内容、実施時期などを来年度に向け検討する必要がある。

○図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール

事前説明会

百科事典の使い方や、参考文献の調べ方などを説明。
『総合百科事典ポプラディア』(ポプラ社)を使ったクイズも実施。



作品審査の状況

北地域図書館で審査会を実施。テーブルに置ききれなくなるほど作品数が増えてきている。



<評価>

昨年度の応募は市内8小学校17作品であったが、今年度は12校の児童から30作品の応募があり、昨年度に比べ参加校、作品数ともに増加した。また、本年度からは中央図書館長にも審査に加わっていただき、中央図書館特別賞も新設し、地域コンクールを発展させることができた。審査員の方々からは「年々レベルが上がってきて評価するのが難しくなった」、「このまま教材に使いたい作品」等の評価をいただいた。

なお、地域コンクールの最優秀賞作品が、全国コンクールで初めて「奨励賞」を受賞した。

<課題>

夏休み期間中に、各館でコンクールに関するガイダンス、作品作成のための指導を行った。このコンクールへ応募するため図書館に何回か通ってくれた児童のうち、今年度も残念ながら作品として仕上げられない児童もいた。来年度以降も、こうした児童への指導、フォローを積極的に行っていく必要がある。

2-5 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-5 勉強や職場内研修をはじめ、様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

2-5 重点事項を達成するための重点事業

- ①外部研修
- ②職場内研修

(1) 重点事業概要

① 外部研修

県立図書館主催の研修に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。

② 職場内研修

職員研修は主任以上の職員が講師となり、毎年度計画的に実施している。今年度は外部データベースの使い方講座などを予定。また著作権に関する勉強会を行う。

(2) 事業実績

① 外部研修

別紙事業報告のとおり。

② 職場内研修

別紙事業報告のとおり。

(3) - 1 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	A	県外の研修に参加し、研修の概要を参加者が全体会議で報告し、情報の共有を図った。
②	A	避難誘導模擬訓練や火災報知機操作盤の操作研修を行った。 また、新規に、職員による勉強会を実施した。その成果は全体会議で発表し、知識の習得を図った。

(3) - 2 総括評価

重点事項	評価	評価理由
5	A	外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

(4) 今後の課題・方向性

- ・新潟県内の研修のみではなく、全国図書館大会や図書館総合展などの全国規模の研修に参加し、最新機器や図書館の最新の動向などの情報を得ることができ、さらに、その内容を全体会議等で報告し、職員間での情報共有に努めた。
- ・館内研修では、避難誘導模擬訓練や火災報知機操作盤の作動研修を行った。
- ・今後も研修の情報を職員間で共有しサービスの向上や業務改善に活かしていく必要がある。
- ・勉強会については、今後も継続し、職員の意識改革につなげていく必要がある。
- ・地域館については、昨年度採用したスタッフも通常業務には充分慣れてきたので、今後も外部研修などに積極的に参加させ、スキルアップを図ることが必要である。

重点事業：2-5-① 外部研修

<目的・概要>

- ・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で習得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。
- ・27年度は、新潟県公共図書館総合部門研究集会の企画・運営を担う。
- ・地域図書館では、県立図書館等の外部研修には今年度も積極的に参加する。

<参加研修>

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| ①新潟県公共図書館新任職員研修 | 5月21、22日（参加中央館2名 地域館5名） |
| ②新潟県公共図書館児童部門研究集会 | 6月30日（参加中央館2名） |
| ③著作権セミナー | 7月31日（参加中央館2名） |
| ④新任図書館長研修 | 9月1～4日（参加中央館1名） |
| ⑤図書館総合フォーラム2015 in 富山 | 9月19日（参加中央館1名） |
| ⑥新潟県公共図書館中堅職員研修会 | 9月30日（参加中央館2名 地域館2名） |
| ⑦新潟県子ども読書活動関係者合同研修会 | 10月 7日（参加中央館2名） |
| ⑧全国視覚障害者情報提供施設大会新潟大会 | 10月 8日（参加中央館1名） |
| ⑨全国図書館大会 | 10月16日（参加中央館2名） |
| ⑩新潟県公共図書館総合部門研究集会 | 10月23日（参加中央館18名 地域館7名） |
| ⑪歴史資料保存活用研修会 | 10月27日（参加中央館8名 地域館3名） |
| ⑫新潟県内図書館実務担当者会議 | 12月10日（参加中央館2名 地域館2名） |
| ⑬静岡県図書館大会 | 11月 9日（参加中央館1名） |
| ⑭図書館総合展 | 11月10日（地域館2名）
11月11日（参加中央館2名） |
| ⑮国立国会図書館レファレンス研修 | 11月19日、20日（参加中央館1名） |
| ⑯新潟県公共図書館職員専門研修会 | 2月29日（参加中央館2名）、
3月1日（参加中央館2名） |

<評価>

（今年度実績） 中央館 61名 参加 地域館 22名 参加

（昨年度実績） 中央館 23名 参加 地域館 5名 参加

- ・中央図書館では、県外研修への参加者を増員し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。係研修で情報共有し、今後の業務に活かしたい。
- ・県内図書館職員の研修について事務局業務を行い、会場を当館としたため、多くの職員・スタッフが研修に参加することができた。

<課題>

- ・中央図書館では、外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善の取り組みをどう行っていくか検討する必要がある。
- ・地域図書館では、昨年度採用したスタッフも通常業務には十分に慣れてきたので、今後も外部研修などに積極的に参加させ、スキルアップを図ることが必要である。

重点事業：2-5-② 職場内研修

<目的・概要>

- ・主任以上の職員が講師となり、職員の専門性向上・情報共有を図る。内容は「貴重資料について」「レファレンス研修」等。
- ・職員勉強会を行う。27年度のテーマは「電子書籍」。
- ・地域図書館では、「マナー」「著作権」「PRのしかた」に関する研修及び若手職員のスキルアップのため、チーフによるマンツーマンOJTの実施。

<研修内容>

○中央館

- ①図書館法規について 4月30日 講師：金垣館長
- ②システム注意・窓口注意事項研修 6月30日 講師：長瀬主査、山本主任
- ③企画展展示解説研修 7月31日 講師：諏佐主査ほか担当職員
- ④除籍について 8月31日 講師：井口主査
- ⑤オンラインデータベース研修 9月30日 講師：長瀬主査
- 【合同】レファレンスに見る長岡の歴史諸相 9月30日 講師：田中文書室長
- ⑥互尊文庫の歴史・取扱注意資料について/防災訓練 11月30日 講師：松矢係長 井口主査
- ⑦職員スキルアップ研修（1）2月26日 講師：仁上 幸治氏「超簡単パスファインダー入門」
- ⑧職員スキルアップ研修（2）2月29日 講師：田村 英彰氏 「法情報の調べ方入門」
- ※電子書籍勉強会 6月30日、7月31日（発表・意見交換）

○地域館

- ① TRC新潟県合同研修 6月29日、30日
著作権セミナー 講師：TRCアドバイザー 末次 牧子
接遇（ビジネスマナー）研修 講師：(株)マナーズ 山田節子氏
- ②【合同】レファレンスに見る長岡の歴史諸相
9月30日 講師：文書資料室 田中室長 林囑託員
- ③ TRC長岡全体研修 行列のできる講座とチラシの作り方 2月29日
講師：NPO法人男女共同参画おおた 坂田 静香氏
- ※個人情報保護研修 9月30日、11月11日、11月30日（各館ごとに実施）

<評価>

（今年度実績） 中央館 8回実施 地域館 3回実施
 （昨年度実績） 中央館 9回実施 地域館 5回実施

中央図書館では主に主任以上の職員が講師となり、経験の浅い職員に研修を行った。また人事課の職員提案型研修に応募し、外部講師を招いて「職員スキルアップ研修」を行った。今年度は県立図書館が100周年事業のため、レファレンス研修の講師をお願いすることができなかった。

また、新規に電子書籍に関する勉強会を立ち上げ、電子書籍について先進館の状況や電子書籍のメリットデメリット等知識の習得に努め、成果を全体会議（3月31日）で発表した。

地域館では、職員の能力育成のための全スタッフ参加の内部研修を年3回実施した。6月に「マナー」「著作権」に関する新潟県合同研修、9月に「レファレンスに見る長岡の歴史諸相」をテーマに中央図書館との合同研修を行った。また、2月末には「行列のできる講座とチラシの作り方」をテーマに研修を実施した。

<課題>

中央図書館では、外部講師による研修を希望する職員が多いことから、他部局の市職員を講師として有効活用するとともに、今後とも様々な手段で研修の機会を設ける必要がある。また、あわせて、マイナンバー制度の実施や障害者差別解消法の施行などに対応するため、勉強会や自主研修の充実を図る必要がある。

地域館では、スタッフ全員が参加する全体研修を、月末休館日を利用して実施しているが、今年度より旧市内4館で月末が土曜・日曜の場合に特別開館を行っているため、開催時期が限定され通常業務と並行して行うことが難しくなっている。

2-6 重点事項評価

長岡市立図書館運営方針の重点事項

2-6 新システムを活用するなど利便性の向上を図るとともに、快適な環境づくりに努める。

2-6 重点事項 を達成するための重点事業

- ①新システムの活用
- ②学習室などの環境整備
- ③BM（米百俵号）によるサービスの充実

（１）重点事業概要

- ① 新システムの活用
 - ・ 便利な図書館利用術のPR、外部データベースの利用促進を図る。
- ② 学習室などの環境整備
 - ・ フリースポットの設置
 - ・ 自習室の机にプライバシー保護のための仕切りを設置する。
- ③ BM（米百俵号）によるサービスの充実
 - ・ 図書館から離れた地域を中心に、ステーションを30か所追加し、利便性の向上を図る。

（２）事業実績

- ① 新システムの活用
 - ・ 新図書館システムの導入により、図書の検索やインターネットサービスが充実、利便性が向上した。
 - ・ システムの大きな不具合は8月末に解消した。今後も業務がスムーズに進められるよう改修を進めた。
- ② 学習室などの環境整備
 - ・ フリースポットは平成27年8月に設置した。
 - ・ 自習室・自習コーナーの机の仕切りは、平成28年3月に設置した。
- ③ BM（米百俵号）によるサービスの充実
 - ・ 巡回場所を増設し、利便性の拡充を図った。夏休み期間に米百俵号ブックカーニバルを実施した。

（３）- 1 事業別評価

事業	評価	評価理由
①	B	新システムに更新後は動作が安定せずトラブルが続いたが、新しく導入したセルフ貸出機は評判もよく、子どもを中心によく利用されている。
②	A	フリースポットは、予定どおり設置でき、利便性が向上した。 自習室・自習コーナーの机の仕切りの設置により、学習環境が向上した。
③	A	新規ステーション30か所を追加し、合計100か所において巡回を実施している。

(3) - 2 総括評価

重点事項	評価	評価理由
6	B	新システムに更新したが、動作が安定せずトラブルが続いた。 フリースポットは予定どおり設置でき、利便性が向上した。 自習室・自習コーナーの机の間仕切りの設置により、学習環境が向上した。

(4) 今後の課題・方向性

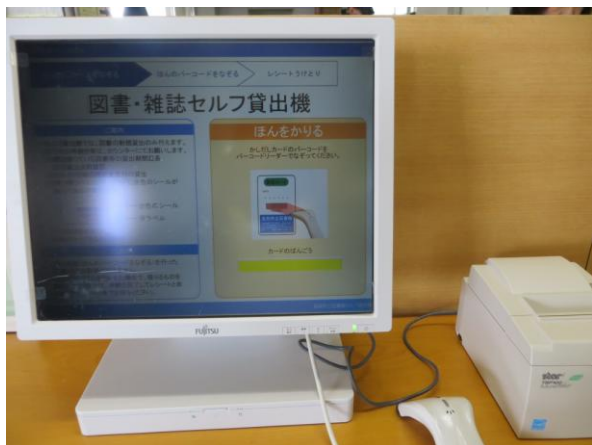
- ・新しいシステムの機能を当館の実情に合うよう向上させることが必要である。
- ・セルフ貸出機やWebの利用をさらにPRしていく必要がある。
- ・フリースポットの利用をPRする必要がある。
- ・新規ステーションの利用者を増やすための広報活動等が必要である。

重点事業：2-6-① 新システムの活用

<目的・概要>

- ・ 便利な図書館利用術の PR、外部データベースの利用促進

セルフ貸出機の導入



OPACも新システム仕様に



<評価>

- ・ 市内全館にセルフ貸出機を設置した。4月から3月までで、260,979冊を貸し出し、52,431人の利用があった。子どもを中心に人気である。
- ・ 中央館で館内 OPAC1 台を増設し、地域館はインターネット閲覧端末を全館に設置した。
- ・ 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを実施した。(33件利用)
- ・ SDI 送信、返却期限、予約取り置き期限のメール送信サービスを開始した。
- ・ Webリクエストの受付を開始し、毎週 90 件ほどの依頼があり、購入希望総数が一気にあがった。
- ・ 米百俵号ステーション受取のWeb予約を開始した。
- ・ スマホ用ホームページを開設した。

<課題>

- ・ 新規稼働時に不安定な状態が続き、積極的な広報をすることができなかったが、今後は積極的に PR していく必要がある。
- ・ 新システムの動作が当館の予約対応や米百俵号利用などに不都合があるため、運用の検討が必要である。

重点事業：2-6-② 学習室などの環境整備

<目的・概要>

- ① フリースポットを設置し、無線LANでインターネットに接続できる環境を整備することにより、利用者の調査活動を支援し、利便性の向上を図る。
- ② 利用者の学習環境の改善のために、自習室・自習コーナーの机にプライバシー保護のための間仕切りを設置する。

<評価>

- ① 平成27年8月1日にフリースポットを設置し、無線LANでインターネットに接続できる環境となった。フリースポットの設置により、所蔵資料とインターネット情報を併用した効率的な調査活動を支援できるようになった。
- ② 自習室・自習コーナーの机の間仕切りの設置により、学習環境が向上した。

<課題>

- ・ 図書館の利用パンフレットに掲載するなど、フリースポットの利用をPRする必要がある。

重点事業：2-6-③ BM（米百俵号）によるサービスの充実

<目的・概要>

- ・図書館から離れた地域を中心にステーション 30 か所を追加し、利便性の向上を図る。
- ・巡回場所の小学校や保育園で読み聞かせやブックトークなどを行い子どもたちの読書活動の推進を図る。

米百俵号巡回貸出



米百俵号ブックカーニバル



<評価>

平成 27 年 4 月から新規ステーション 30 か所を追加し、合計 100 か所において巡回を実施している。地域別のステーション数は下記のとおり。

<地域別ステーション数>

	旧長岡	三島	中之島	越路	小国	山古志	栃尾	与板	寺泊	和島	川口	合計
27 年度	35	7	5	7	9	4	9	7	4	6	7	100
26 年度	32	4	5	6	4	3	5	2	4	2	3	70
前年度比	3	3	0	1	5	1	4	5	0	4	4	30

- ・夏休み期間に小学校や児童館 6 か所で「米百俵号ブックカーニバル」を実施した。読み聞かせやパネルシアター、スライム作り、万華鏡工作、本の貸出を行った。
- ・中央図書館前での貸出、さいわいプラザでの巡回貸出を行った。（11 月 21,22 日、9 月 12 日）
- ・10 月の 1 号車車検の際想定以上の日数が必要となり、運行中止が 1 日、4 日間代車による運行を行った。2 号車は車両トラブルにより 1 日運行休止、4 日間代車による運行を行った。
- ・1 月の巡回について、米百俵号車庫シャッターの故障及び大雪の影響により運行中止・代車による対応を行った。1 号車は運行中止が 3 日、代車による運行を 4 日行い、2 号車は運行中止が 2 日、代車による運行を 5 日行った。貸出累計冊数は 59,680 冊となり、前年度比+696 冊となった。

<課題>

- ・巡回場所については、利用者のニーズに合わせて毎年度検討する必要がある。
- ・新規ステーションの利用者を増やすための広報活動等が必要である。